

Jpn. J. Ent., **63**(1): 234. March 25, 1995

新 刊 紹 介

『原色図鑑/野外の毒虫と不快な虫』梅谷献二・編, B6判, 331頁, 1994年10月発行, 全国農村教育協会, 3,600円.

これはまた, なんとという独断と偏見に基づいた図鑑なのだろう。「毒虫」はまだいいとして, 「不快な虫」とは一体誰がどんな基準で選んだのか. ページを繰ってみると, ハナアブ, オサムシ, マイマイカブリから果てはアゲハチョウまでがそのおどろおどろしい虫の仲間として取り上げられているではないか.

ところが, 落ち着いて読んでみると, この点に関してはわざわざ断り書きがしてある. そして不快昆虫(動物)の解釈について, 凡例補遺として著者の見解が示されているのである. その内容はこの図鑑の持つ特色をよく伝えていると思われるので, 一部を引用してみる.

『本書を共同執筆するに当たって, いわゆる「不快昆虫(動物)」の扱いが問題となった. 個人差の大きい“嫌悪感”以外に実害のない種を登載することは, これらの種に「有害」の基準を与えることになりかねず, 自然保護や生物学の普及面からも好ましくないというのがその理由である. 多くの研究者や愛好家が, このような世間一般の不当なイメージを是正するために努力を重ねてきた背景もある. しかし, 多くの人がクモを恐れ, イモムシを嫌悪していることも事実である. また, 保健所などにおいてはそれらの問い合わせと対応に追われ, こうした無害の昆虫(動物)専用の殺虫剤まで市販されているのが現状である. 本書の中でこうした種の一部をあえて紹介したのは, 個人の感情の改変が困難なことを是認した上で, なおその可能性に期待したからにほかならない. ……』

本書は, 先に刊行されて好評を博した『原色図鑑/衛生害虫と衣食住の害虫』(安富和男・梅谷献二共著/1983年)を屋内編とし, その姉妹編ともいえる野外編として企画された. 収録の範囲は, 昆虫類以外にダニ類, クモ類, ムカデ, ゲジ類などの他, ナメクジ, ヒル, ミミズの仲間にもまで及んでおり, 昆虫類を中心に広い範囲の多くの種が18名の専門家により執筆されている. もとより研究者を対象とした学術書ではないが, 解説文はそれぞれ専門家としての執筆の確かさを感じさせるに十分である.

ところで, 本書にはもうひとつの特色がある. それは, 本書が単に危険な虫, 不潔な虫といった衛生害虫の解説書の枠にとどまらず, ゆっくり観察する機会の少ないこれら「不気味な」虫たちの姿を間近に眺めて楽しめる写真集にもなっているということである. 序文には『本書を実用書としてばかりでなく, 美しい野生昆虫・動物の写真集としても見ていただきたい. 益とか害とかの問題を超越して, 彼等の姿形に刻みこまれた悠久の太古からの進化と適応のみごとなあかしにも思いを馳せていただけたら, それこそ著者たちの望外の喜びとするところである』とある. そこに収録された虫たちが美しいかどうかは別として, 執筆者たちがそれを決して危険・不快という否定的な一面だけでとらえていないことは, そのすばらしい写真からも存分にうかがえる.

本書はきっと著者たちの期待どおりに活用され, 「この世に不快でない虫などいるものか」という人たちにとっても, 怖いもの見たさの域を越えて, チョウの鱗粉が毒ではないことを知ってもらうために役立つことだろう.

(河合省三)